



武蔵野市福祉公社高齢者福祉支援インターンシップ

社会福祉学科 1年 酒井朝基 水島和奏



テーマ：ライフステージの最終場面を迎えるため、当事者の『老いへの準備』を充実したものとするため、地域社会がいかに支えているか

目標

*酒井 朝基

- ①実際に施設で働いている職員の方の経験や、実際に利用者の方と関わることで、支援の仕方や利用者さんとの関わり方、利用者さんのニーズや生きがいを学ぶ。
- ②今回の高齢者支援インターンシップを通して、将来自分がどの分野で働きたいのかを考え将来に活かす。
- ③加齢によって起きる変化や問題(心・身体・環境)を理解する。

*水島 和奏

- ①福祉公社の理念や目指していることを理解し、学習する姿勢を崩さないように、全力で取り組む。
- ②20日間の実習を通して、学んだことを言語化し、他者へ伝えることができるように1つ1つ考えて行動する。
- ③利用者様の目線に立って、主観的な概念を押し付けることなく、柔軟な対応をする。

高齢者総合センター

社会活動センター

社会活動センターでは、主に様々な講座やイベントを開くことで利用者さんの「社会参加・介護予防・フレイル予防」を目指し活動していることを学んだ。実際に「楽々タオル体操」と「ときめき転倒予防体操」に参加させていただき、想像よりも高強度な内容の体操を利用者の皆さんは楽々こなしていたことに驚き、社会活動センターの意義を体感することができた。

デイサービスセンター

デイサービスセンターでは、朝の送迎体験、午前中のいきいき体操、午後のプログラムを通して大勢の利用者さんと関わらせていただいた。毎日欠かさず行う「いきいき体操」は身体機能の維持・向上、認知症予防を主な目的としていること、午後のプログラムは講師の先生による音楽教室や職員の方が考えるレクリエーションなどがあり、利用者さんの生きがいになっていることを学び、職員の方と利用者さんの温かさを感じた。

住宅改修・福祉用具支援センター

作業療法士や理学療法士の仕事や生活の基盤となる住まいと住まい方についての支援を学んだ。住まいを整えることで介護負担の軽減も期待できるということを知ることができた。環境の整備では、福祉用具の使用や住宅改修など、その人の生活スタイルなども見据えた上で、1番良いものを提案することが大切であると学んだ。また、福祉用具や高齢者体験を通して、車いすでの移動の注意点や高齢者の身体の不自由さを理解することができ実感した。

在宅介護・地域包括支援センター

このセンターは地域の高齢者の相談窓口となっていること、多種多様な業務をこなすために総合的な知識と現場での経験が求められていることを知ることができ、多職種連携により、それぞれが専門性を活かすことが支援の質を向上させていくことにつながっているのではないかと感じた。介護保険制度についてはサービス利用までの流れを自宅訪問などに同行させていただく中で実際に体験として学ぶことができた。テンミリオンハウスでは、施設の方のお話から目指している形やその目的と現状、課題についてなどを理解することができ、地域の中の1つの居場所としての形があるのだということを知った。

本部事務所

成年後見利用支援センター・権利擁護センター

成年後見利用支援センターでは成年後見制度の総合相談・普及に関する事業、権利擁護センターでは利用者さんの状況に合わせた五つの事業を行っていることを学んだ。

ホームヘルプセンター・ケアプランセンター

ホームヘルプセンターでは要介護者の方に対し、利用者さんの状況に合わせた訪問介護サービスの提供、ケアプランセンターでは多職種と連携しながらケアマネジメントを行うことを学んだ。

総務課

「住み慣れたところで一生を」という理念の下で公平・中立な支援を提供し続けるために、縁の下の力持ちとして会計・法務・設備管理・人事など幅広い業務を行っていることを学んだ。

地域包括ケア人材育成センター

事業所のPR動画の撮影やパンフレットの作成などの業務を行っていた。その中で、人材育成とその後の定着の重要性や広報の難しさを学び、福祉に偏らない客観的な視点で広い視野を持つことの必要性を感じた。

三鷹サテライトオフィス

生活自立センター

生活自立センターでは、多様な課題を抱える利用者さんに対して「伴走型の支援」「家計簿の見える化」を特徴とした包括的な支援を行っていることを学び、幅広い知識、地域とのつながりの大切さを感じた。

北町高齢者センター

デイサービスセンター

北町高齢者センターのデイサービスセンターでは、開業当初からボランティアの方たちと連携・協力し合って運営してきたことを学び、毎日の体操、様々な趣味プログラムは利用者さんの生きがいになっていると感じた。

子育てひろばみずきっこ

高齢者センターと同一建物内で運営されていることで世代間交流が行えるという点が大きなメリットであると感じた。また、地域の子育て中の親の交流の場や子どもの居場所となっていることを知った。子どものみならず親同士のつながりをつくるきっかけになっているのだと感じた。

コメント

* 公益財団法人武蔵野市福祉公社 方波見 美穂様 島田 健一様
全身全霊ですべての体験に臨むお二人の姿は輝かしく、学びを疎かにしない姿勢に、深く感銘を受けました。20日間、体験に関わることが出来たこと、心から嬉しく思います。

* 武蔵野大学教育学科 芳賀 亮作先生

武蔵野市福祉公社様での学外学修を通して、高齢者福祉に対する新しい発見や貴重な体験を数多く実感できました。この学びを今後の生き方に大いに生かし、前進していきましょう。

感想

* 武蔵野大学人間科学部社会福祉学科 酒井 朝基

今回の実習を通して、事前に立てた三つの目標は達成できたと思う。中でも特に重要視していた将来の働き方に関して、それぞれの分野の魅力を知ることができたため、今回の学び・感じたことを活かし働き方を決めていきたい。

* 武蔵野大学人間科学部社会福祉学科 水島 和奏

20日間を通して貴重な体験をさせていただく中で、今までとは違う新しい視点を得ることができたと思う。また、自身の知識や経験の不足を学びに変え、今後の学習を深めるために目標の1つであった「考えたことを言語化すること」を意識して全力で取り組むことができたと感じる。